2023　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1年制)		科　目　区　分	基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	読解(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			

《授業科目における学習内容》

7月の第1回日本語能力試験N2合格、留学試験対策を目標に、ストラテジーを身につける。授業では精読、速読を取り入れ、説明文、論説文、エッセイ、小説やグラフや文字などの情報が多く入った文も扱う。毎回テーマを決めてその力をつけていく。キーワード、指示語、主語の省略、接続詞などポイントを押さえながら、選択肢を見て探すのではなく、自分で筆者の意見をまとめられるよう進学後を見据えての必要な力をつける。辞書なしで、想像しながら読み進める力も習得する。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 課題提出:10%
3. チェックテスト:10%
4. 授業態度:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「新完全マスター読解N2」「日本語総まとめN2」
「ドリル&ドリル　日本語能力試験N2読解」(課題)
「日本留学試験ポイントレッスン問題集」から抜粋,オリジナルハンドアウト使用。

《授業外における学習方法》

毎回、前回の授業内容の小テストと課題を課す。

《履修に当たっての留意点》

選択肢に頼らず、自分で要約し、意見を書くことを後期の最終の目標とする。毎回、課題を出し、そこでできていない部分を授業で解説していく。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(1)　実力チェック	使用教材から適宜抜粋	復習
		各コマにおける授業予定	どんなストラテジーが必要かを見る。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(2)　情報を取ることができる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	全体をつかむ ビジネスレター、メール、張り紙など		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(3)　情報を取ることができる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	必要な情報を探し出す 広告、お知らせ、説明書きなど		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(4)　情報を取ることができる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	必要な情報を探し出す 表やリストなど		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(5)　文章の仕組みが理解できる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	評論、解説、エッセイ文など 文章全体の意味を捉える 対比文、言い換え		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(6)　文章の仕組みが理解できる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	評論、解説、エッセイ文など 文章全体の意味を捉える 比喩、疑問提示文、主張表現など		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(7)　質問に答える技術を身につけられる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	評論、解説、エッセイ文など 文章の細かい部分を正確に読み取る 指示語を問う、「だれが」「何が」「何を」などを問う		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(8)　質問に答える技術を身につけられる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	評論、解説、エッセイ文など 文章の細かい部分を正確に読み取る 下線部の意味を問う、理由を問う、例を問う		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(9)　500字程度の中文の問いに答える(1)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	内容理解(中文)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(10)　500字程度の中文の問いに答える(2)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	内容理解(中文)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(11)　900字程度の長文を読み筆者の主張に答える(1)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	主張理解(長文)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(12)　900字程度の長文を読み筆者の主張に答える(2)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	主張理解(長文)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(13)　評論、解説、エッセイなどを比較統合しながら理解できる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	統合理解		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(14)　広告、お知らせ、説明書きなどを比較統合しながら理解できる	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	統合理解		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(15)　700字程度の情報素材の中から必要な情報を探せる(1)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	情報検索		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	読解(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

7月の第1回日本語能力試験N2合格、留学試験対策を目標に、ストラテジーを身につける。授業では精読、速読を取り入れ、説明文、論説文、エッセイ、小説やグラフや文字などの情報が多く入った文も扱う。毎回テーマを決めてその力をつけていく。キーワード、指示語、主語の省略、接続詞などポイントを押さえながら、選択肢を見て探すのではなく、自分で筆者の意見をまとめられるよう進学後を見据えての必要な力をつける。辞書なしで、想像しながら読み進める力も習得する。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 課題提出:10%
3. チェックテスト:10%
4. 授業態度:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「新完全マスター読解N2」「日本語総まとめN2」
「ドリル&ドリル　日本語能力試験N2読解」(課題)
「日本留学試験ポイントレッスン問題集」から抜粋,オリジナルハンドアウト使用。

《授業外における学習方法》

毎回、前回の授業内容の小テストと課題を課す。

《履修に当たっての留意点》

選択肢に頼らず、自分で要約し、意見を書くことを後期の最終の目標とする。毎回、課題を出し、そこでできていない部分を授業で解説していく。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(16)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	表や掲示物、こ・そ・あの問題について		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(17)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	キーワード問題について		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(18)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	筆者の主張や考えについて		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(19)	使用教材から適宜抜粋	課題、復習
		各コマにおける授業予定	接続表現・文章の並べ方について		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	中上級(20)		
		各コマにおける授業予定	総復習(能力試験、留学試験問題など)		